

私の工夫

言語活動の工夫 「討論活動」

真庭市立北房中学校

教諭 坂本 豊子



1 はじめに

言語活動の充実が言われて久しい。自分の考えをもち、それを表現し、それをグループの仲間と協働学習により深めるといった好循環を生むことを、担当教科の英語だけでなく、担任として道徳などでも積極的に取り入れてきた。ワークシートの工夫、ロールプレイ、ロールレタリング、協働学習など楽しく活動してきたが、討論活動、ディベートとなると、少し抵抗があったことは否定できない。

2 道徳→討論活動

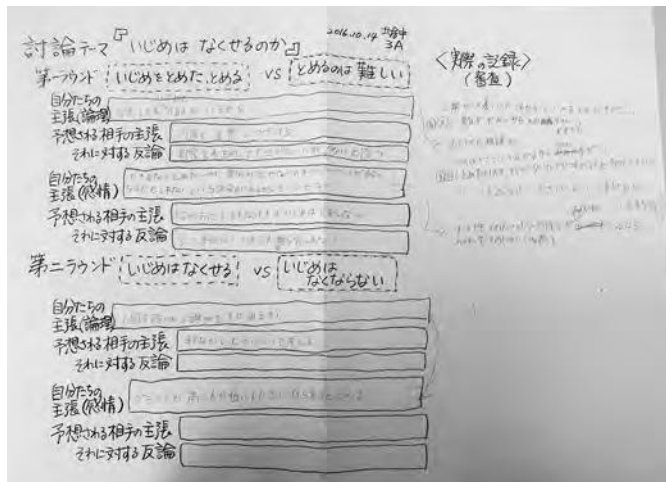
昨年度担任した3年生のクラスで、道徳の授業で、「卒業文集

最後の二行」(あかつきの道徳)「はじめは残酷だと思った」(私たちの道徳)を読んだ後、名札にピンク色が「はじめをなくせる」、黄色が「なくせない」と自分の考えを表示した。



色で心情を表した様子

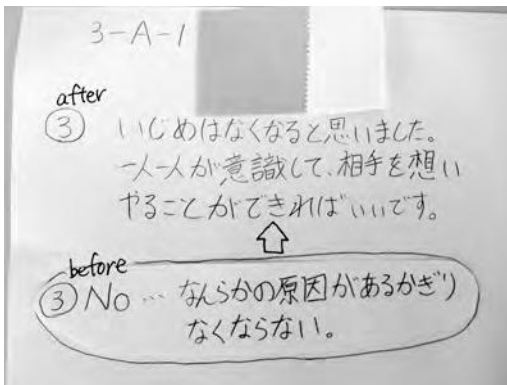
次に、討論活動の方法を国語科教科書(一年用)で確認した。



討論を進めるためのワークシート

2つのグループで意見をまとめ、討論に入った。この討論活動は、「犬か猫か」といった平易な内容の討論ではないので、振り返りの時間はもったが、勝敗をジャッジするようなことはしないということを確認して開始した。第1ラウンドで、「はじめをとめる」か「とめることは難しい」か、第2ラウンドでは、「はじめをなくすことができる」か「なくすことは難しい」かという立場で行った。はじめの問題は、生徒の内面の奥

深いところがあり、表面的に正論を述べることは簡単だが、自分の考えや他者の考えを深めることは容易ではない。しかも、このクラスは登校が難しい生徒がおり、お互いを大切にしていない言動が見られるなど、人権意識の向上が求められるクラスであった。しかし、ディベートというゲーム的な要素も含んだ活動により、多様な価値観に考えを及ぼせることができたように思う。「はじめを本当の意味で無くすためには、もつともつと本気で互いのことを考えていかなければ」



「はじめをなくすことができるのか」
討論の前後での生徒の変容

ればならない。そういう意味では、
なくすことは難しい」という考え
が優勢で終わった。相反する価値
観に触れ、ディベートの開始時と
終了時で、多様性を受容できてい
る様子から、生徒間のつながりが
深まったと感じることができた。

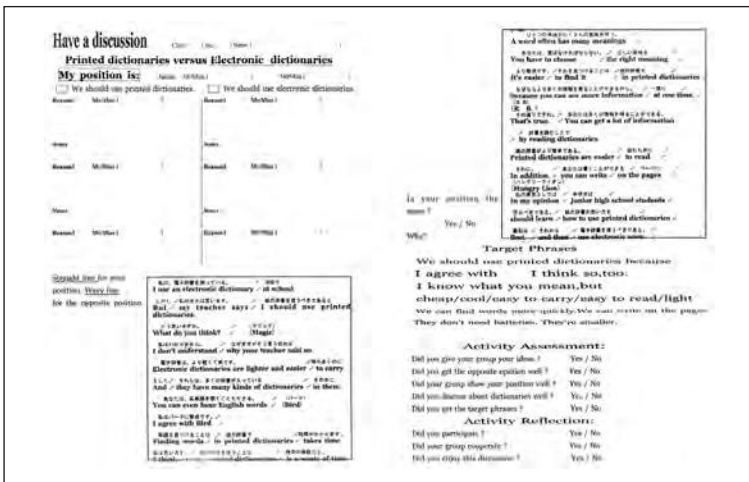


討論の作戦を立てている様子

3 英語科のディベートへ

先述の討論活動は、普段の授業
から取り入れている協働学習（学
び合い）の要素も多く含んでいる。
そこで、英語科でもディベートに
取り組んでみることにした。議論

する内容は、「紙の辞書か、電子
辞書か」ということにした。まず、
2つのグループに分かれて、準備
をした。生徒は、いじめに関する
討論活動をしたばかりだったので、
すぐ準備をし、英語が苦手な生徒
も、一生懸命自分たちの意見を英
語にしていた。討論に必要な表
現も学び、本気で意見を戦わせた。
英語力の限界にイライラする様子
が見られた。



英語ディベートの準備用紙

学習に対しても前向きな姿が
見られるようになった。
英語科のディベートは、地
域の公開授業として行ったが、
あきらめないで表現しようと
する生徒の姿勢に、教師の方
があきらめているのではない
かという意見が聞かれた。英
語で自分が表現できないこと
にいらつく様子は、英語で言
いたい文章を作るいいチャン
スだったと思う。英語科では、
実践的な英語の使用場面を設
定することが求められるが、
今回は、自分の考えを他の人
の意見と共に深める活動とす

4 おわりに

今回の実践において、私自身が
抵抗感をもっていった討論活動に取
り組むことができた。学級集団は、
未熟な点が多く見られ、人権意識
を高める必要性を感じており、学
力的にも向上心をもつことが難し
い生徒が多かった。しかし、この
討論活動を通して、お互いを大切
にすることができるようになり、

ることができた。

主体的・対話的で深い学びが行
われ、話し合いにおいても協働的
に探究することができるようにな
っていった。英語科で考えると、
生徒の英語力も決して高いとは言
えず、ディベートは難しい。しか
し、協力して何とかしようとして
いる姿が、生徒の現状から考える
と、成果として大きかったと言
うことができる。英語科の問題に限
らず、生徒の資質、学ぶ力の汎用
性を高めたと言うことができる
と考える。そして、この笑顔が私の
財産となった。



雑問の討論を終えて